



## 7地区社会福祉協議会合同 レクリエーションスポーツ大会

10月19日に町内の7地区社協(大総・横芝・上堺・日吉・南条・東陽・白浜)の運営委員が集まり、誰でも気軽にできるレクリエーションスポーツを実施!

地区対抗で白熱した試合が行われました。普段は、各地区で活動しているため交流が少ないですが、レクリエーションスポーツを通して親睦や交流を深めることができました。



～支え合い助け合う

誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり～

社会福祉法人 横芝光町社会福祉協議会

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川11902 TEL 0479-80-3611 FAX 0479-80-3651

E-mail info@yokoshibahikarishakyo.jp <http://www.yokoshibahikarishakyo.jp/>

# 福祉のまちづくり 作文・ポスター・標語

## 入選作品介绍

今年度は町内小・中学生から作文・ポスター、一般の部として町内高校生以上の方から作文・標語を募集したところ、計70点の作品が寄せられました。小学校の部・中学校の部・一般の部でそれぞれ入選作品が決定しましたので、ご紹介します。



## 作文の部

小学校の部 最優秀賞

### 「福祉（介護）を学んで」



日吉小学校6年  
おおき ひな  
大木 陽菜

私のお母さんは、デイサービスで介護の仕事をしています。仕事が大好きと言っているお母さんですが、すごく大変な仕事でもあると話しています。昔からたくさんのお話を聞いていたので、介護の仕事は私の中で身近な職業のように感じていました。

今年の春頃から家族の中で一番元気だったひいおじいちゃんが、デイサービスに行くようになりました。デイサービスの方を近くで見ている、「何か小さなことでもひいおじいちゃんのために手伝いをしたい」と思いました。

お母さんに相談すると、  
「それなら直接行って自分の目で学んできなさい。」  
と言われたので、お母さんの働いているデイサービスのボランティア活動に行くことにしました。

はじめに、お母さんの職業である「介護」という仕事は、高れい者や病気で手助けが必要な方に、身の回りのお世話をしたり、自立を目指してお手伝いをしたりする仕事だと教わりました。

ボランティア活動をしていると、職員の方が全て

を手伝っているわけではないということに気がつきました。職員の方に理由を聞いてみると、

「全て手伝ってしまうと簡単なことでもさらに出来なくなってしまうたり、やらなくてはいけないという気持ちが悪くなってしまうからだよ。」と教えてくれました。この話を聞いて、できる範囲を見極めてお手伝いをする事が大切だということを知りました。

ボランティアでは、たくさんの方の利用者の方と話をしたり、体操やレクリエーションと一緒に体を動かしたりしました。

利用者の方との話が終わったとき、お母さんが、  
「話をするときには目線の高さを合わせて丁寧な言葉で話したり、『してあげる』ではなく『させていただく』という気持ちを持って接したりすることで相手を尊重することが大切なんだよ。」と教えてくれました。

ボランティア活動を終えて、ほんの少しですが、介護の仕事や介護の現場で働く方々の考え方を学ぶことができました。この経験を活かして、まずはひいおじいちゃんとたくさん話をして、小さな事でも私に何か手伝える事があれば、それを精一杯がんばりたいと思います。

ひいおじいちゃんのように、高齢や病気などで助けを必要としている方はたくさんいると思います。そういった人を町の中で見かけた時は、今回のボランティア活動で学んだことを活かして自分から声をかけたいと思いました。

## 「身体障害を持っている人と私たち」



上堺小学校6年  
鈴木 佑ら  
すずき ゆら

私たちのまわりには、身体障害を持っている人がいると思います。身体障害とは、体の一部がうまく動かせなかったりすることを言います。身体障害を持っている人はふだんの生活でいろいろなこと困っています。私は身体障害を持っている人がどうしたら住みやすい町になるのか考えました。まず最初に、身体障害を持っている友達がいるとき、私たちはどのように接すればよいのか考えてみました。私たちがちがって、体のどこかが不自由なので、接し方がむずかしいと考えるかもしれません。私はふつうの友達として接することが一番大切なのではないかと考えました。特に、笑顔で話しかけてあげたり、身体障害を持っている友達ができるような遊びを考えてあげるのが大切だと思います。次に、身体障害を持っている人が暮らしやすくなるために環境を整えることが大切です。私は、スロープや手すりなどを増やしたりして、身体障害を持っている人が移動しやすくてできるようにしたいです。また、身体障害を持っている人たちへの理解を深めることも大

切です。身体障害を持っている人の苦労などを知ること、私たちもサポートしてあげたいという気持ちになります。たとえば、学校で身体障害についての授業をしたり、身体障害の本を読んでみたりなどをすると、より多くのことがわかり、困っていることがあったら自然と「何か手伝えることがあれば声をかけてね。」と言えるようになります。最後に、身体障害を持っている人たちといることで、私たちが成長することができて、一緒に笑ったり、助け合ったりすることができそうです。身体障害を持っている人々を理解して、支えることはすごくいいことだと思います。私たちが心を通わせて、もっとよい社会を作りたいです。これからもたくさんの人と手を取り合って、みんなが幸せに暮らせるようにしたいです。

### 中学校の部 最優秀賞

## 「自分にできること」



横芝中学校1年  
平山 鈴乃  
ひらやま すずの

「ずっと一緒にいたかった。」  
それは、そう祖父の日記に書いてあった。  
私にはいつも笑顔を見せてくれたそう祖父がいた外で遊ぶ時もおやつを食べる時も、いつも笑顔で見守ってくれていた。しかし、そう祖父は脳梗塞になり、九十二歳で亡くなってしまった。いつも見守っ

てくれた優しいそう祖父はもういない。心細かったけど仕方がないことだ。

私は幼い頃、保育園に通っていた。その園では老人ホームとの交流が行われており、園児が訪れた時には一緒に手遊びをして遊んだり、劇を披露したりした。幼かった私はその交流が楽しみで、自分のそう祖父ではなかったが、介護されている施設のお年寄りの方が笑顔になってくれると自分も嬉しくなったことを覚えている。また、施設で働いている方が「大丈夫」と優しくお年寄りの方に声をかけると安心して表情になり、その様子が微笑ましく、とても楽しい時間を過ごすことができた。

その思い出からふと、気づく事があった。それは、そう祖父はいつも私の側にいてくれたということだ。毎日安心して生活できたのはそう祖父がいてくれたからで、そのことが私にとってどれだけ大切だったか。「福祉」とはどういう意味があるのか。もし、私が問われたら答えることができない。だからインターネットで調べてみた。「福祉とは、様々な人の違いを認め合いながら、みんなが自分らしく生き生きと暮らし、誰かのために普段の暮らしを幸せにすること。」「特定の誰かだけではなく、みんなが幸せになれるように取り組む活動や仕組みのこと。」「誰もが当たり前の日常を取り戻し、支え合い互いに寄り添うこと。」

私はこれまで「福祉」とは、病院や施設で働く人だけのことを指し、自分とは無関係なものだと思っていた。しかし、そう祖父との思い出を振り返ったり調べたりするうちに私なりの考えが見つかった。私の考える福祉とは、「支える側と支えられる側の区別

はなく、互いに安心感や安らぎ、喜びを与え合うこと」  
だと思ふ。私はそう祖父から安心感を与えられ、そ  
う祖父に安らぎを与えることが出来たのだと思ふ。

私は日常生活の中で家族や友人、学校の先生など  
多くの人と関わっている。この関わりの中で私ほど  
のくらい支え、支えられているのだろうか。幼い頃  
見た老人ホームでお年寄りを支える優しい一言は、  
特別ではないはずだ。互いの存在を大切に想い、誰  
もが優しい言葉をもつことが出来る。そして、ずつ  
と一緒にいたいと思う身近にいる人達を大切にして  
支えあつていきたい。

もし、名前も知らないすれ違う人にも、私が考え  
る「福祉」の心をもてるならば町中に笑顔が溢れるだ  
ろう。

#### 中学校の部 優秀賞

### 「家族の絆」



横芝中学校1年

かわかみ たまえ  
河上 珠依

私は両親と姉そして祖母の五人家族です。でも祖  
母は、第二松丘園という施設に入所しているので、  
一緒には暮らしていません。

二年前、朝ご飯を食べていると、急に箸を落とす  
ようになり、その箸を拾うことができず、空をつか  
むようにしている様子に母がおかしいと気づき、す

ぐに救急にかかりました。検査をしてもらうと脳梗  
塞を起こしていることがわかりました。色々と処置  
をしたのですが、既に認知症も発症していることや、  
高齢だということもあり、あつという間に歩けなく  
なりました。私は祖母のことが大好きなのでとても  
心配ですぐにお見舞いに行きたかったのですが、新  
型コロナウイルスが流行していたこともあり、私は  
全く会うことができず、いつも面会にいつている母  
の話の聞くしかありませんでした。祖母はリハビリ  
を頑張り、今は歩くことはできませんが車椅子で移  
動できるようにまで回復したそうです。我が家は両  
親共働きなので、祖父母と留守番することが多かつ  
た私は、祖母と歩いて買い物に行きお菓子を買って  
もらうことが大好きでした。時々タクシーにも乗せ  
てもらい、ワクワクしたこともよく覚えていています。  
そんな元気だった祖母が段々歳を重ねていくうちに  
できないことが増えてきて、気が付くと認知症とい  
う病気を患い、母は仕事と介護ととても大変な様子  
でした。しかし、私は友達と遊ぶことやゲームに夢  
中で今思うとなにもしてあげていなかったと、後悔  
しています。あの時、何ができたのかな。帰ってき  
てから、洗濯物を畳むことができたかな？お皿洗い  
ができたかな？もつと祖母とお話することができ  
たかな？今考えるとどうしてあの時できなかったん  
だろう。あの時は、自分のことばかりで家族のこと  
を考えられずにはいたと思ひます。では今から出来る  
ことをやってみよう。それは何だろう。まずはでき  
なかったことをやる事、それから今まだ会えない祖  
母に手紙を書くこと。それから勉強や剣道を頑張る

こと。それがいま私にできることだと思ひます。  
私は、家族を大切にすることが福祉に貢献するこ  
とに繋がると思ひます。

#### 一般の部 優秀賞

### 「気づく目」を養う」



しおの まほ  
塩野 真歩

私は現在、二十代後半です。私たちの世代は、福  
祉教育が進み、小学生の頃からたくさん「福祉」に  
触れてきました。高齢者体験や妊婦体験、赤ちゃん  
を抱っこさせていただいたり、地域の方々どふれあつ  
たり、様々な経験を学校の授業の中で行ってきまし  
た。ボランティア活動にも参加したことがあります。  
電車に乗って辛そうな方がいれば席を譲ります。こ  
のように沢山の経験をしてきたにも関わらず、今に  
思えば、「それが良い行動である」ということはわかっ  
ていても、どこか当たり前にあるもののように感じ  
ていました。とても恵まれていたのだと思ひます。

私には足の不自由な祖父がいました。そんな祖父  
も十年ほど前に亡くなりました。祖父が遠出をする  
時には、長く歩くのは難しかったため、車椅子が必  
要でした。二十年以上前からバリアフリーが徐々に  
進んで、車椅子で移動できる範囲がとても広がりま  
した。しかし、車椅子を借りられるところは少なく、

出先で、もし借りられなかったらどうしようという不安から自前の車椅子を車に乗せて移動してしました。祖父が亡くなったあとと祖母も車椅子を使うことが多くなりました。そのときには、だいたいどこにも車椅子があり、持っていかなくともよくなりました。借りられなさそうな場合でも、社会福祉協議会で車椅子の貸出を行っていて、何度もお世話になりました。とてもありがたかったです。今になり考えるとそれだけ社会に車椅子を必要としている人が多くいることがわかります。

私が実感をもって社会福祉を肌で感じたのは大学に入学してからでした。私が教育学科に所属していたことも関係していたかもしれません。講義の中でも福祉について学びました。高齢者施設や特別支援学校、公立学校の通常学級、特別支援学級にも実習に行かせていただきました。そのように福祉について、知識として得て、目で見させていただけいたあとに、実体験として社会のすごさに気づく些細なきっかけがありました。大学四年生も終盤、部活動で腰を痛めてしまい、足が三センチも上がらないような状況になってしまいました。しかし、部活動に行かない訳にはいかない立場だったため何とか登下校をしていました。そのときに気づいたのです。県をまわりたいで登校しているのに、全く階段を使わなくても家から駅、駅から駅、駅から大学まで移動することが出来ました。社会が困っている方を排除しない仕組みを作っていると実感しました。横芝駅も改修が終わりエレベーターが出来たことで身体が不自由な方々の移動も楽になったと思います。

私は大学で「気づく目」を養う事が出来たと思っています。既にいたる所に福祉の手は広がっていて、それに携わっている方々がいます。手をさしのべている方々がいます。幼い頃からの福祉教育において助け合うことが当たり前であるという基礎的な概念を身につけ、実際に現場を見たり、自らが体験したりすることで、気づく目を養うことが出来ました。住む環境が異なると困っている方の理由も異なります。例えば、大きな駅では人混みの中で白杖を持った方が歩きにくそうにしている姿を見たこともあります。では、横芝光町ではどうか。人混みで点字ブロックを見失うことは少ないかもしれません。歩行者が少なく助けを求めにくいかもしれません。私はその困り感に気づける目を持ち続けたいです。現在、私は子どもたちに関わる職に就いています。自分自身も気づく目を持ち続けると共に、子どもたちにも私自身の経験をたくさん話し、気づく目を作る一助になればいいと思います。そして、たくさんの人たちに気づく目が広がり、困っている人や助けを必要としている人の手を取ることができれば、全ての人を包み込む社会の実現が可能になるのではないのでしょうか。



## 標語の部

一般の部 最優秀賞

おはようさん  
毎日笑顔を  
ありがとう

一般の部 優秀賞



おおき  
大木しげ子

気はながく  
心はまるく  
助けあい

一般の部 佳作

わからない  
ゆっくり話し  
心つなが

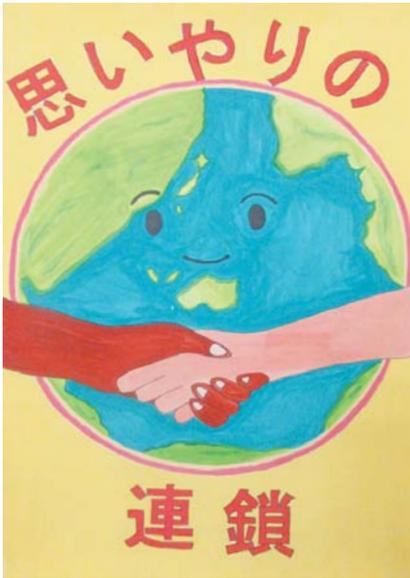
小学生の部 優秀賞



白浜小学校6年  
なかの あづき  
仲野 彩月



小学生の部 優秀賞



横芝小学校6年  
うめつ ももか  
梅津 百花

小学生の部 佳作



白浜小学校1年  
じつかわ ほのか  
實川穂乃佳



小学生の部 佳作



白浜小学校2年  
あきば りこ  
秋葉 梨瑚

小学生の部 佳作



白浜小学校6年  
もがみ あいな  
最上 愛菜



白浜小学校5年  
あきば ねね  
秋葉 寧々



小学生の部 佳作

# 地域のふれあい活動

各地区社協主催の敬老事業が開催されました。それぞれ趣向を凝らした「おもてなし」が行われました。

## 日吉地区社協



山本泉による「銚子大漁節」に合わせてみんなで輪になり踊りました！

## 東陽地区社協

山本泉歌謡ショー



## 南条地区社協



◀「コントdeげき隊」による詐欺にあわないための啓発



◀小川台サロン有志による竹太鼓の演奏

## 白浜地区社協



▲ハッピーカムカムハマナーズによるバンド演奏

▼和太鼓「KAZE」



## 横芝地区社協

キッズダンスショー▶



▼本町のお囃子



## 上堺地区社協



▲日本舞踊の演芸を見ながら、一緒に踊って楽しみました！

フラダンス▶



## 大総地区社協

ピエロのまーくんパフォーマンスショー



## 能登半島地震・大雨災害 義援金受付

# 1,378,121円

を被災地へお届けしました(11/18現在)

日本赤十字社千葉県支部横芝光町分区では1月1日に発生した地震と9月21日に発生した大雨災害により能登半島に甚大な被害が広がっていることから、義援金の受付を行っています。

ご協力いただける方は、社会福祉協議会事務局で受付をしているほか、町各公共施設にも募金箱を設置しています。

### 募金箱設置場所

- 役場総合案内窓口
- 町民会館
- 文化会館
- 東陽病院
- 社会福祉協議会

※なお、詳しくは社会福祉協議会までお問い合わせください。



## 日常生活自立支援事業(通称：すまいる) 生活支援員募集!

地域の困っている人の手助けをしてみませんか?

判断能力が不十分な高齢者や障がいのある方の「福祉サービス利用」や「日常的な金銭管理」を支援する生活支援員を募集しています。

### 【生活支援員とは】

定期的に利用者のお宅に訪問し、必要に応じた相談や預貯金の出し入れ、支払い代行等を行うなど、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援する方のことです。

### ◆登録条件

- ①20歳以上の方(概ね70歳程度)で横芝光町に在住の方
- ②ボランティア活動や福祉に関心を持ち、生活支援員として横芝光町社会福祉協議会と協力して取り組んでいただける方(現在、民生委員・児童委員や訪問介護として活動している方は除きます)
- ③千葉県社会福祉協議会が指定する生活支援員養成講座研修を受講できる方



## 優勝 黒潮スタジアム

## 第36回 チャリティー野球大会



後援：横芝光町社会福祉協議会

令和6年11月3日～11月17日に第36回チャリティー野球大会が、町内外から16チームが参加し、開催されました。

決勝戦は黒潮スタジアムとレジェンズが対戦し、3対1で黒潮スタジアムが優勝しました。

## 食品の寄付 ありがとうございました



令和6年9月17日(火)～10月31日(木)まで行ったフードドライブ(食品回収)に多くの方からご協力をいただきました、いただいた食品は、生活に困窮している方のために活用させていただきます。

## よこしばひかり 福祉のつどい開催

開催日時 令和7年2月22日(土) 午後1時より

会場 町民会館 大ホール

内容 【第一部】式典  
・福祉功労者表彰  
・一般の部作文・標語表彰

【第二部】

- ・能登半島災害に伴うボランティアセンター運営支援についての講演
- ・光ウィンドオーケストラによる演奏
- ・震災復興支援抽選会

※なお、詳細については後日、回覧にてご案内いたします。